

1 原子核三者若手夏の学校の援助要請

文責: 東 武大¹ (京都大学・素粒子論 D1)

このたびは、貴会より原子核三者若手夏の学校 (以下、夏の学校) への支援を賜りたく
お願いの文面を投稿させていただきます。

夏の学校は、素粒子論・原子核理論・高エネルギー実験の学生が一同に会して行なわれ
る巨大な研究会であり、今年は約 300 人の学生が参加をしました。夏の学校は、これから
研究に関わっていく大学院生が、国内の第一線の研究者の講義を聞くことによって、また
研究会で他の学生の話聞くことによって、研究者になる上で必要な素養を培う場として
毎年運営されてきました。また、こうした研究会の存在は、素粒子・原子核の分野の研究
活動を活性化させるうえでも重要な位置を占めるものであり、2002 年度夏の学校で 48 回
目を迎えます。

夏の学校に参加するにあたって、学生の負担額は大きいものがあります。現状では交通
費・宿泊費・参加費をあわせて約 5 万円の個人負担となっており、このことは多くの学生
が夏の学校に参加し、夏の学校が活性化するうえでの大きな障壁となっております。貴会
よりはかかる現状に対して寛大なるご理解を頂き、昨年度の貴会の総会におきましては、
今後、夏の学校に講師として参加される場合は、なるべくご自身の科研費より費用を出す
ことについて了承を賜りました。貴会の示して下さいたご理解は、夏の学校の参加者の旅
費補助を充実させ、負担を軽減させる上で非常に意義の大きいものとなります。ご厚情深
く感謝申し上げます。

来年度も夏の学校の講師を引き受けて下さる場合は、ご自身の科研費でご参加頂きます
よう、改めてお願いを申し上げます。我々若手は夏の学校が質の高い企画となるように誠
心誠意努力を重ねていく所存でありますゆえ、今後ともご支援ご鞭撻のほど宜しくお願
い申し上げます。

¹E-mail: azuma@gauge.scphys.kyoto-u.ac.jp